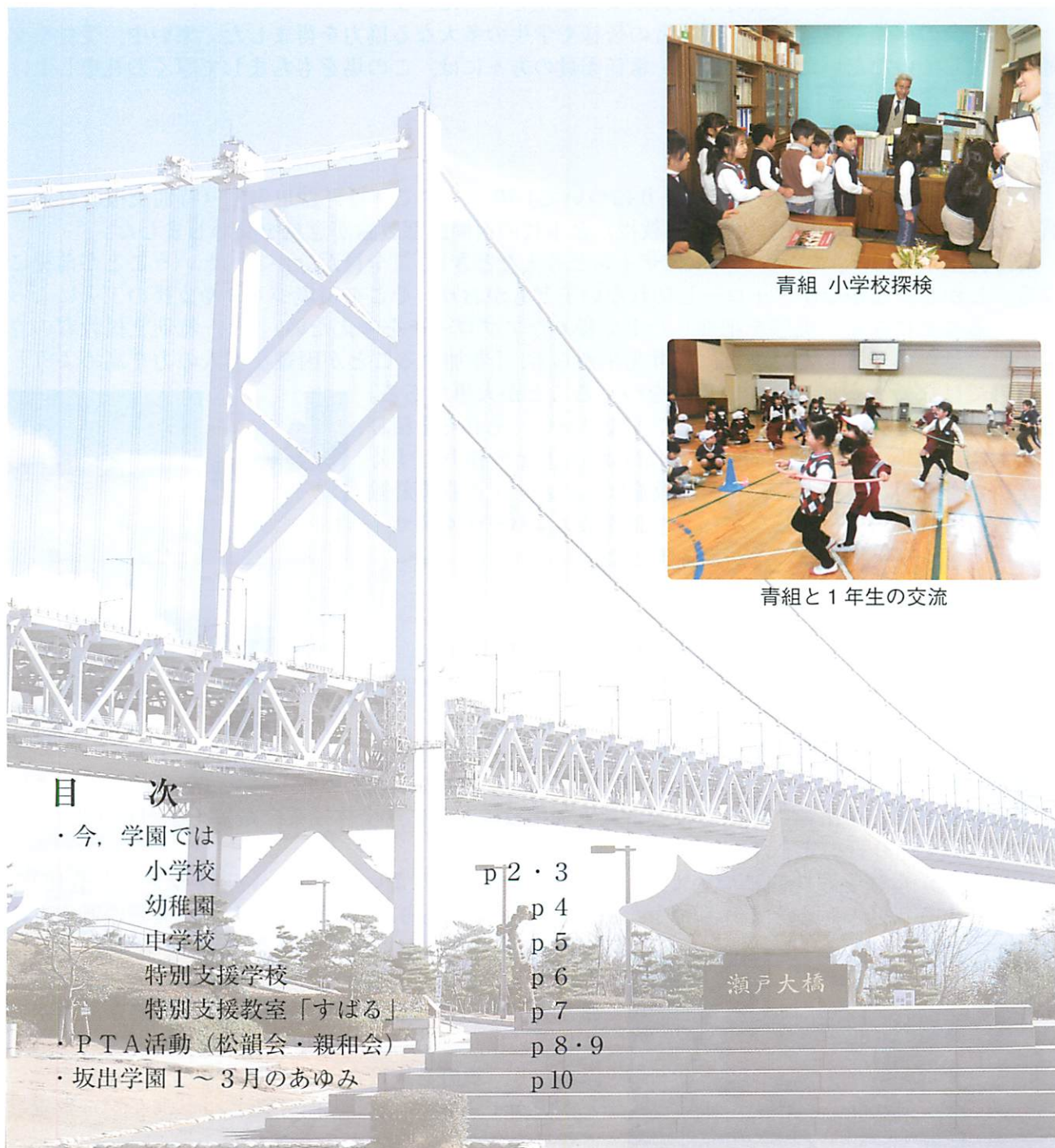


香川大学教育学部

附属坂出学園だより

第47号

2014.3



青組 小学校探検



青組と1年生の交流

目次

- ・今、学園では
 - 小学校 p 2・3
 - 幼稚園 p 4
 - 中学校 p 5
 - 特別支援学校 p 6
 - 特別支援教室「すばる」 p 7
- ・PTA活動（松韻会・親和会） p 8・9
- ・坂出学園1～3月のあゆみ p 10

1月30日（木）、31日（金） 教育研究発表会に県内外から1800名参加

「思考力」を育成するユニバーサルデザインの授業づくり（2年次） — 特別支援教育の考えを生かして、すべての子どもの思考活動を保障する —

1月30日と31日の2日間、第97回附属坂出小学校教育研究発表会が、晴天のもと盛大に行われました。県内外の小中学校や教育関係機関より、2日間でのべ1800名近くの参会者をお迎えし、本校の研究実践をご覧いただくとともに、全国にその意義と歩みを発信することができました。

今回は、上記のような研究主題で2年次になります。本年度は特に、すべての子どもの思考活動を保障するための支援を工夫するとともに、学び合いを重視した研究を進めてきました。文部科学省から4名の調査官を招いて研究の方向性について確認するとともに、17本の研究授業ではそれを具現化した形で披露し、参会者から貴重なご意見をいただきました。

また、会の準備や運営では、保護者の皆様や学生の多大なる協力を得ました。寒い中、受付や交通案内をしていただいた松韻会役員、常任委員の方々には、この場をもちまして厚くお礼申し上げます。

鼎談

「ユニバーサルデザインの授業づくりについて」のテーマで、丹野哲也先生（特別支援教育調査官）、坂井聡先生（香川大学教育学部教授）と本校の西岡由都教諭が意見を交わしました。

丹野先生からは、「ユニバーサルデザインと考えたときに、『全員が分かる』ということが前提になる。しかし、なかなかフォローし切れない子どもがおり、そこを環境づくりや支援の工夫によって支えることになる。実態を把握した上で様々なアプローチを考えたい。」と、特別支援教育の立場からの話がありました。また、坂井先生からも、「参加することが困難な個人の力を高めようとするのではなく、参加しやすい環境をつくるのが大事である。個人の力が足りない分は周囲の理解や支援で補い、それらを積算した大きさが他の子どもと同じになればよい。」と分かりやすく図を用いた説明がありました。西岡教諭は、これまでの指導経験や本校の実践事例を紹介しながら、参会者にユニバーサルデザインの授業づくりを伝えることができました。



全体授業、シンポジウム

4年東組の理科「もののあたたまり方」を全体授業として、体育館で行いました。金属と違い、水は熱源から遠い上部から温まると分かった子どもたちが、その理由を考え実験によって確認します。

授業後にはシンポジウムとして、4名の調査官（水戸部修治先生、澤井陽介先生、村山哲哉先生、丹野哲也先生）に登壇していただき、本校の研究部長である中田祐二教諭と授業者森真佐純教諭と共に、全体授業を踏まえながら「思考力」育成について語り合いました。

村山先生からは学習問題について、「子どものもつ問いによい悪いはない。クラスで共有化し、それに対する自分の考えをどうもつかである。」との話があり、水戸部先生からは実験の進め方について、「子どもが見たいと思う段階で、それに合った実験をしていた。」との言葉をいただきました。また、澤井先生からは学び合いについて、「多面的な思考ができるために、2項対立で終わるのではなく、共通理解を深めたり、視野を広げたり、折り合いをつけたりすることが大事である。」と、専門分野とつなぎながら貴重なご意見をいただくことができました。



研究授業

2年 国語科「知ったことをもとに考えたことをまとめよう -『虫は道具をもっている』-」 篠原 智子

本単元では、「生き物について書かれた文章を読み、生き物の体の仕組みについて、自分の考えをまとめ、発表し合う」という単元を貫く言語活動を行いました。この言語活動遂行の際、「文章を読み知ったことと経験をつなげて、自分の考えをもつ」という思考力が働きます。

『虫は道具をもっている』を読み、虫の体を借りてやってみたいことを考えてきた子どもたち。本時は「バッタの足」「アシナガバチの羽」「タカの目」について紹介されている文章を読み、生き物の体を借りてやってみたいことを考えていきました。その際、「生き物と人間を比較し、よく似たところや、違うところを捉える」という技能を発揮しながら読むことが必要になってきます。生き物と人間、それぞれの道具を比較し、類似点を見つけやすくするために、その両者を左右に配置した表を活用しました。本文は生き物ごとに1枚のカードにして提示しました。1枚のカードに一つの生き物の説明が書かれているため、混乱することなく、どの子どもも確実に表にまとめることができました。表から、バッタの足とトランポリンについて「高く跳ぶ」という類似点を確認した子どもたちは、トランポリンを使って遊んだ経験を語り合うことで、バッタの足の便利さを実感を伴って捉えていきました。さらに、「人間は道具を使う」が「生き物は道具を持っている」という違いを確認することで、トランポリンのような足を持つバッタに対する憧れの気持ちを高めていきました。同様にアシナガバチ、タカが体に持つ道具について読んでいった子どもたちは、一番お気に入りの道具を持つ生き物の体を借りて、やってみたいことを文章にまとめていくことができました。



【表を活用する】



【本文をカードで提示】

5年 音楽科「『ゴジラ物語』の音楽をつくろう」

太田 雅子

本単元では、映画音楽『ゴジラ』の旋律を基に、グループごとに考えた「ゴジラ物語」にふさわしい合奏をつくることになりました。そのためには、強弱、速度、高低、拍子、かけ合いといった音楽を特徴付けている要素や仕組み、それらの効果を知った上で用いる必要があります。

そこで、合奏づくりに取り組む前に、まず既習曲を振り返りました。その中で用いられている音楽を特徴付けている要素や仕組みを「匠の技」と称し、「タッカのリズムを使うと、タタのリズムよりはずんでいる感じがする。」「4分の2拍子の時は行進しているようだけど、4分の3拍子の時にはワルツを踊っている感じがする。」というように「匠の技」の効果を一冊のファイルにまとめました。

合奏づくりでは、まず自分たちの「ゴジラ物語」を表すのにふさわしい「匠の技」を付箋に書いて、拡大楽譜に貼りました。子どもたちはこれらの「匠の技」を基に演奏する楽器を選び、リズム、高さなどを決め、和音や打楽器のリズムなどを加えて合奏をつくり上げました。お祭りに参加したゴジラを表すグループは、和太鼓を使って前奏を付けるという新たな技で、祭りの楽しい雰囲気を表しました。恋をしたバレリーナのゴジラを表すグループは、変拍子の原曲を4分の3拍子にアレンジし、うきうきした感じを表すのにふさわしい音色の楽器を組み合わせました。

本時は、すべてのグループが発表し、物語にふさわしい技を使って音楽を表現できているかどうかを聴き合いました。それぞれのグループの技の工夫を認め合った後、友達からのアドバイスを音で試している姿があり、物語の様子が伝わる音楽表現をより追求していこうとする子どもの意欲が感じられました。



【物語に合う技を付箋で貼る】



【祭りに参加したゴジラを表す】

研究主題

幼児教育の質を高める計画と実践の在り方を考えるⅡ

～主体性と協同性の視点から～

1月31日、第58回附属幼稚園研究大会を開催しました。県内外から約250名の参会者をお招きし、盛会に終えることができました。

附属幼稚園では、質の高い保育を「一人ひとりの主体性や協同性が発揮できる生活」と捉え、それをめざして、保育のプロセスを大切にしたい計画や実践の在り方について研究を進めてきました。

＜日程・内容＞

- 9：00～10：50 公開保育
 11：10～12：00 全体会
 ～開会式・研究経過報告～
 13：00～14：10 分科会
 協議テーマ
 「この時期の主体性と協同性を
 どう見つめ、育んでいくか」
 14：30～16：00 講演
 聖徳大学大学院教授
 (前文部科学省教科調査官)
 篠原孝子先生
 「主体性と協同性を育む保育」

公開保育の様子



独楽

糸引き独楽の特性を生かした遊び方を提供することで、いろいろな遊び方を試してみようとする意欲や態度が膨らむように。

鬼ごっこ
～だるまさんが
転んだ～

子どもたちの柔軟な発想やイメージを大切に遊ぶことで、いろいろな友達と一緒にその面白さを共有して楽しめるように。



サッカー

教師も仲間の一人として全力で遊び、個々のよさやチームプレーを認めていくことで、自己発揮につながったり友達関係がより深まっていくように。

1. 研究内容

- 1) 主体性と協同性を育む環境構成や保育の展開、教師のかかわりについて明らかにする。
 「主体性と協同性を育む」という視点から保育実践を行い、事例を作成していきます。その事例検討を行うことにより、主体性と協同性を育む保育づくりの視点や教師のかかわりのポイントについて、結果主義的視点ではなく保育のプロセスに着目し、明らかにしていきました。
- 2) 主体性と協同性が発揮できる生活をめざした指導計画の活用の仕方を提起する。
 これまでに作成した指導計画を、1)の成果とつなぐことによって、保育の質の向上が図れる指導計画の活用の仕方を提起していきたいと考えました。なお、教師のこれまでの経験も、指導計画や保育実践で生かされていくことも考慮して検討しました。

2. 研究の成果と課題

目の前の子どもが何に心を揺らし、一人ひとりがどのような育ちにあるのか、しっかりと捉えることが保育の出発点です。主体性と協同性を育んでいく教師の働きかけは多様にありますが「子どもの姿」「指導計画」「教師の願いやねらい」の3つがバランスよく噛み合った時に、子どもの主体性や協同性が本当の意味で発揮されたといえることが分かりました。

また、指導計画の活用の仕方については

- ・指導計画の1つ1つの言葉の意味を大切に、それが十分経験できるような保育実践をしていく。
- ・保育は子ども理解から始まる。指導計画に書かれているこれまでの子どもの姿とこれからの子どもの姿を読み取ることで、今の子ども理解がより確かになる。
- ・指導計画は育ちを見取り、保育の展開を考えていく1つの仮説である。それを踏まえて、子どもの姿をベースに書き換えられていくものである。

ということが分かりました。しかし、これらは指導計画の活用の仕方の一部であると考えます。今後もそれぞれの教師の計画・実践の在り方を話し合い、そこでの学びを次の計画・実践に生かしていくことで、教師としての保育の視点の幅を広げ、質の向上を目指していきます。

「学ぶこと」と「生きること」の統合 — 語り合う中で自己の「ものがたり」をつむぐ —

本校は、学校教育が終わっても様々なことに関心をもち、自ら課題を見つけ、その課題解決に向けて自ら考え続けることができる「自立した学習者」の育成を目指しています。本年度卒業する3年生に3年間の学びを振り返ってもらいました。

この附属坂出中学校の3年間を通して、僕にとっての学びの意味は大きく変わった。ただ教科書を読み、問題を解き、単語を暗記するだけだったのが、自分が興味をもったものについて、課題を設定し、様々なアプローチでこれを解決するものへと変わった。



高校、大学を出て社会に出たら、もう誰も問いや答えを用意してはくれないだろう。きっとそんな事がこの先山のように起こると思う。けれど、今の私に活かされているCANやシャトルで学んだことはきっとこれから将来、大人になっても役立つと思う。自分から積極的に問いを見つけ答えを探していける、今よりもっとそういう人間になりたいと思う。

やっぱりほんとにほんとに一番はいろんなことを教えてくれる「人」に出会えたことです。人と出会うという事は一番の「学び」の原点だと思います。高校生になっても出会うという「学び」を大切にして、楽しみながら生きていきたいです。

この学校が独創的かどうかは私にはよく分からないけれど、通常の授業を受けていても、シャトル学習をしていても、CANをしていても、おもしろい、楽しい、興味がある、と感じられることは素晴らしいことだと思います。この3年間で、私は視野を広げることができ、たくさんの方に好奇心が芽生え、コミュニケーションの大切さを知り、探究することの大切さを知りました。こうやって振り返ってみると、なんとまあ内容の濃い中学校生活だったなあ、と感じることができるのです。

CAN2014がスタートしました！



【体育館でのガイドダンス】



【一人でテーマを熟考】

今年はどうな
研究物語が生
まれるかな



第17回 教育研究発表会

子どもの主体的な社会参加をめざしてⅡ

—参加を高め、知識・技能を活用する力を育む授業づくり—

2月8日（土）、第17回教育研究大会を開催しました。当日は大雪に見舞われ、申込み数を大きく下回ったものの、教育・福祉関係者を中心に、全国各地から、約270名のご参加をいただきました。

本校では、4年前から、児童生徒の「授業への参加を高める」ために、授業づくりを重ねてきました。全体提案では、その授業改善の方法を提案し、その後、改善した授業を実際に公開しました。各



学部の分科会やトークショーでは、参会者からご質問やご意見をいただき、一緒に「参加を高める授業づくり」について考え、さらに、筑波大学の藤原義博先生のご講演では、「授業づくり」のポイントについて分かりやすいお話をいただきました。この研究会で皆様からいただいたご意見、ご感想を糧に、「授業づくり」の可能性を信じ、より一層、研究に邁進していきたいと思ひます。



小学部

小学部では、「ことば・かず」を対象教科として取り上げ、児童が目的意識をもって学習に取り組み、知識・技能の習得だけでなく活用までをめざした授業づくりに取り組みできました。

研究授業「たりない数はいくつ？」では、より日常生活に近い設定の中で、足りない数を数えて、指導者や友達に伝える姿を実現することができました。



中学部

中学部では、国語科・数学科において、身に付けた知識や技能を生活場面での活用につなげることができる授業づくりに取り組みできました。

研究授業「およその金額で考えて買い物しよう！～ICカードを使って～」では、友達と協力して合計金額を見積もり、ICカードでの支払いを体験することで、実生活で活用できる買物スキルが身に付きました。



高等部

高等部では、これまでの学習の成果を、様々な場面で活用していけるように、卒業後の生活に生かせる力を育むことをめざした授業づくりに取り組みできました。

研究授業「ライフスキル～将来に向けてできることを増やそう～」では、時間を意識しながら行動したり、個々に選択した活動に主体的に取り組みたりすることができました。



講演

筑波大学教授の藤原義博先生をお招きして、「児童生徒の自立と社会参加を培う、わかって動ける授業づくり」と題してご講演をいただきました。子どもの主体性を大切にして、活動の目標・内容をより高く広くするためには、先生が動いて子どもが動かない授業から「子どもが動いて先生は見守る」という授業改善が必要であること、そのための環境設定や支援ツール、協同学習のポイントについて示唆していただきました。



附属特別支援学校 第17回教育研究発表会における 特別支援教室「すばる」のポスター発表

2月8日（土）、附属特別支援学校において第17回教育研究発表会が開催され、特別支援教室「すばる」の取り組みについてポスター発表をさせていただきました。発表では、本教室の設立の経緯や概要に関する説明、個別指導の事例や関連する自作教材の紹介を行いました。

50分間のポスター発表でしたが、多くの参加者にご覧いただき、「個別指導ではどんなことをしているのですか？」「すばるに通わせるにはどうすれば？」など様々な質問を受けました。なかでも、「これはどのように使うのですか？」など展示教材に関する質問が多く、説明する度に「なるほど。」「これはいいですね。」などうれしい感想をいただくことができました。一方で、「学校ですぐに使うことのできる教材があれば。」というご意見もいただき、一斉指導の際に即時活用できる教材の必要性を感じる場面もありました。本教室の個別指導では、個別指導対象の子ども認知特性や興味関心に基づいて教材作製を行っており、その子の実態に焦点化した教材を活用しているということが大きな特徴です。今後は、個の実態を重視しながらも「より汎用性の高い教材」という視点も考慮して教材作製に取り組み、継続的にどこでも活用できる教材や支援を工夫していきたいと思いました。そして、今回のポスター発表のように、特別支援教室「すばる」での実践やその成果を、学校や地域に対して広く情報発信していきたいと考えています。

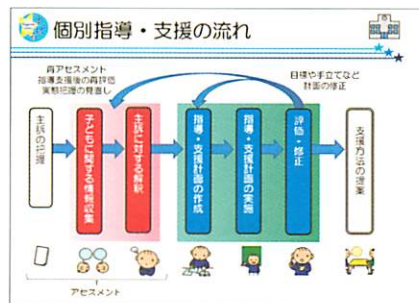


・ポスターの内容（一部）

特別支援教室「すばる」とは

通級指導教室のモデル事業

- 公立の小・中学校における「通級指導教室」の在り方の提案
- 子どもの能力や特性に応じた個別指導の内容と方法に関する実践と研究
- 保護者ならびに学級担任等に対する支援
- 一般への理解啓発



対象児

- 小学校の通常の学級に在籍する5年生男児
- 医療機関においてアスペルガー症候群の診断
- 服薬はない

主訴

- 学年相応の漢字学習ができていない
- 書くことへの苦手意識が強く、うまく書きたいのに書くことができないため、ストレスを感じている
- 5年生の多数の文章題に困難がある
- 興味があることに対しては意欲的に取り組むことができるが、興味がないと他のことを書いていることが多い
- 被害妄想が強く、加齢だとトラブルになりやすい

・展示教材の紹介



「発表くん」：日記を書くことが苦手なAさんの指導で活用した、過去の経験を思い出しながら文を作成していく教材です。Aさんは視覚的に全体を把握することが得意なため、「いつ」「どこで」「だれと」などの自分の経験に該当するイラストカードをシートに並べ、経験した事柄の関係性を見て理解できるようにしました。イラストカードが経験を思い出す手掛かりとなり、それまで3文程度だった日記から、感想などを含む7文程度の日記を書くことができました。学習に慣れてくると、イラストに関係した経験を思い出して文にすることもできました。



「図形カルタ」：図形の形や名称を覚えることが苦手なBさんの指導で活用したカード教材です。Bさんは単純な視覚情報の識別やパターンの学習が得意なため、図形の特徴的な部分を本人が分かりやすいイラストや言葉で定義づけしたカードにしました。それらをプレイルーム内にランダムに置き、指導者が読み上げたカードを探し出すというカルタ形式の学習に数回取り組みました。苦手な課題でしたが、机上の学習だけでなくゲームを通して楽しみながら取り組むことで、図形の名称を負担なく覚えることができました。

幼稚園より

角山登山

2月17日、大好きな青組さんとのお別れの意味も込めて、全園児、先生方、保護者の皆様と、幼稚園から角山まで登山を行いました。青組さんに手をひかれ、黄組さんも初めて登山に挑戦しました。途中で大きな道路や勾配の急な坂道がありましたが、保護者の心配もよそに子どもたちは行きも帰りも元気そのものでした。山を歩きながら落ち葉を拾ったり、赤組さんが黄組さんに道を譲ってあげたり、日頃の園内では経験できない温かな心の交流が芽生えた一日でした。



みんなで坂道、なんのその！

ミニ運動会

2月19日、いつになく雪の多い寒い冬となった今年は、リズム室でミニ運動会を行いました。小学校体験を終えて一回りも二回りも大きくなった青組さんは、リズム室の準備から当日の司会進行まで眩しいほどのリーダーシップを発揮。その様子を見ている赤組さんには「次は自分たちがこんなふうにするんだな」という自覚が芽生えてきている様子でした。保護者の皆様も角山登山の疲れも見せずに温かい声援を送ってくださり、子どもたちと一緒におんぶに縄跳び、綱引きにとスキップを図る素敵な時間を過ごすことができました。



楽しいおんぶの帽子とり



白熱！綱引き対抗戦



親子でがんばる縄跳び競争

小学校より

坂出市PTAソフトボール大会

12月8日（日）に坂出市PTAソフトボール大会が開催されました。附属坂出小学校からは2チームが参加しましたが、残念ながら共に予選敗退でした。同日夜に行われた1年間のスポーツ事業の反省会では優勝した幼稚園チーム、準優勝の中学校チームが盛り上がる中、肩身の狭い思いをしたものの楽しい時間を過ごすことができました。保護者同士の親睦をさらに深め、来年こそ優勝できるように頑張りたいと思います。



お話ランチボックス

「おはなしママ〜ず」では、子どもたちにホッと一息つける時間をとの思いで、毎週水、金曜日に20名程度のメンバーが交代で読み聞かせの活動をしています。12月11日（水）にはお話ランチボックスのお楽しみ会が行われ、絵本をスクリーンに映し、ピアノ演奏を交えながら巨大な海の絵巻を使った人形劇等を上演しました。いつもは元気な声が響き渡る体育館ですが、この日ばかりは子どもたちも静かで、色彩豊かな海の世界に引き込まれ想像を膨らませていました。



早くから待ち構えていた1年生が、最後まできちんと座って話を聞いていた姿に成長を感じました。PTA活動を通じて、日頃から子どもたちをご指導してくださる先生方への感謝の気持ちを改めて感じました。

中学校より.....

保護者交流カフェ

12月7日（土）、中学校のオープンスクール時に保護者交流カフェを開催しました。新一年生の保護者や入学希望者、またその子どもたちを対象に多目的室でみんながくつろげる場所を設けました。

まず中学校でどのような行事があるのかを知っていただくため、DVDで運動会や修学旅行の映像を上映しました。先輩たちの楽しそうな、生き生きした顔を映像で見ながら、新一年生は期待に胸を膨らませた事だと思います。



【生徒の活動を紹介した映像が好評でした】



【「どら焼き」を求めて行列ができました】

また保護者交流カフェでは、昨年度のCANで生徒がレシピを開発した「しょうゆ豆どら焼き」の販売も行いました。初めて食べる人はもちろん、何度か食べたことがある人もみんな、とても満足そうでした。もちろん、どら焼きは完売しました。

幼稚園や小学校と違って中学校では保護者同士の接点が若干少なくなります。このような機会を設けることにより、もっと保護者同士が交流し、また学校に対しての理解を深めていく機会が増えること。それがPTA行事の醍醐味だと思います。来年も保護者、子どもたち共にたくさんの方が参加できるように工夫を重ねていきたいと思っています。

特別支援学校より.....

親和会活動報告

25年度の後半に行われた親和会の活動を紹介します。

2月16日（日）に、行事部企画の「ボウリング大会」が行われました。毎回ご家族同士や先生方との交流を図るよい機会となっています。今回も大勢の参加者で盛り上がり、たっぷり2ゲームを楽しんでいただきました。上位入賞者には図書カードが贈られ、喜んでいただきました。

親和会



【ボウリング大会】



【保護者交流会】

2月24日（月）には、研修部企画の「保護者交流会」が行われました。卒業生親の会から、会長さんと会員の保護者の方に来ていただき、現在のお子さんの様子や、親としてどう向き合ってきたかなどをお聞きしました。先輩方が先を歩き、私たちに残してくれたものに感謝するとともに、次の世代へとつないでいくことも必要だと感じました。

2月の終わりには、文化部が編集した文集「親和だより」が完成いたしました。数年前から、学校編集の卒業文集「やまもも」と一緒になり、子どもたち、先生方、そして保護者の思いがこめられた盛りだくさんの一冊となっております。2月28日（金）の「卒業生を送る会」で、卒業生に贈呈されました。



【やまもも文集贈呈】

こうして、25年度の親和会活動は、会員みなさまのご協力のおかげで、スムーズに楽しく取り行うことができました。来年度も、松韻会のみなさまとともに、より楽しくPTA活動を進めていきたいと思っています。

理科・数学等の課題解決力を競う全国大会で第10位になりました

12月21・22日、東京で第1回科学の甲子園ジュニア全国大会が行われました。香川県予選を勝ち抜いた代表チーム6名のうち、附属坂出中学校からも、青木章真さん(1年)、永濱珠希さん(2年)、原田安美さん(2年)の3名が出場しました。実生活・実社会との関連、融合領域から出題された難問をCANやシャトル、教科の授業で身につけてきた思考力や表現力、探究力などを活かして見事クリアし、全国第10位という快挙を成し遂げました。さらにナリカ賞(殊勲賞)も同時受賞し、副賞が手渡されました。皆さんも来年度の第2回大会にチャレンジしてみませんか?



受験に臨む3年生にエールを送りました

1月8日、恒例の3年生激励会が行われ、1,2年生一人一人が書いた励ましの手紙を3年生に手渡しました。ある1年生は、「入学してから今までありがとうございます。たくさん勉強して大変だと思いますが、がんばってください。先輩方が希望する進路に進むことができるように応援しています!」と、エールを送り、ある3年生が、「今まで支えてくれてありがとうございます。1,2年生が陰でいろいろしてくれておかげで僕たちは成り立っていると思います。受験がんばってきます。」と、メッセージを返していました。今年も、附属中生の強い絆が感じられる、温かい交流の会となりました。



中学校

市学童ミニバスケットボール大会で男女共に優勝しました!

1月24日、坂出市立体育館で学童ミニバスケットボール大会が行われました。市内から男女各11チームが参加し、学校規模が似たチームとグループ別の優勝を争います。本校ではこの大会に向けて12月初旬から放課後練習を始め、体育科教員による指導のもと、男子16名、女子18名の希望者が参加して練習に汗を流しました。



大会当日、女子は1回戦で東部小に22対5、決勝戦では林田小に33対2という大差で勝ち、優勝することができました。指導者からは、「スポーツ少年団での経験者が他の子どもに教えながら、団結したチームになったことが勝因だと思います。」との感想がありました。

一方男子は接戦でした。1回戦で林田小に8対5で勝ち、決勝戦では坂出小と6対6の同点で時間がきました。同点の場合は、最終ゲームに出ていたメンバー5人ずつがくじを引きます。その結果、3人が当たりを引いて優勝することができました。劇的な勝ち方に、キャプテンは、「実力が同じ位の相手だっただけに、くじでの優勝は幸運でした。」と謙虚に喜んでいました。



小学校

特別支援学校

【小学部】(雲辺寺で雪遊び)

年間4回、校外学習に出かけます。今回は雪遊び。今年は学校にも雪が降り、プレイヤードで「そり」の練習をしてから雲辺寺に行きました。一面の雪に大喜び!そりに乗って何度も上り下りしたり、雪合戦をしたり、雪だるまを作ったりして、雪を満喫しました。



【中学部】(校外学習)

学年最後の校外学習。各クラスごとの目的に合わせて行き先や活動内容を自分たちで決めて、行ってきました。中1は1年間の成長を振り返るために、「こんびらさん」でウォークラリー。中2は修学旅行に備えて、JRの「旅プラン」を利用して岡山～新倉敷間の新幹線乗車体験。中3は台風で行けなかった「カドリードミニオン」に代わる岡山の「池田動物園」散策。天候にも恵まれ、それぞれ楽しい思い出を作ることができました。



【高等部】(高3研修旅行)

毎年卒業を前に、公共の交通機関や施設の利用について学習し、社会生活における経験を広げるとともに、仲間との友情を深めるために行っています。研修先や日程を自分たちで計画することが、卒業後の余暇につながったり事業所での団体旅行の模擬体験として役立ったりしています。



幼稚園

1月 おでんパーティー

青組の部屋から幼稚園いっばいに広がってくるおでんのいいにおい。今年も青組が育てた立派な大根でおでんパーティーをしました。具は、こんにゃく、ソーセージ、ちくわ、うずらのたまご、すじ肉、そして大根。青組さんが小さい人のことを思ってちょうどいい大きさに切ったり、美味しくなあれ~と思いを入れて大きな鍋で煮たりしてくれず。黄組さんも赤組さんもおいにつられて思わず「味見させて!」とお願ひに行く姿も…。パーティーでは青組さんの考えた楽しいクイズや手作りのお花が飾られたテーブルなど素敵なおもてなしがいっぱい!みんなで食べたから、おいしき倍増!心も体もほがほかです。



クイズを出します!



どうぞ召し上がれ



とってもおいしいよ

2月 豆まき

3日の節分の日。幼稚園にやってきた2人の鬼さんと豆まきを楽しみました。みんなの心の中にも「かせびき鬼」や「ねぼすけ鬼」がいるかもしれないから、豆まきして追い出そう!とそれぞれにお面や角を付けての豆まきです。各クラスで作ったそれぞれのお面や角を付けて、園庭で思いきり「鬼はそと!福はうち!」と鬼を追いかける子どもたち。鬼も心の鬼も追い出しました。



みんなで鬼を追い出そう!

編集後記

今年の冬は、珍しく雪が何度も降り積もりました。雪だるまを作った楽しんだ子どもも多くいたことでしょう。

一方で、交通機関は度々影響を受け、登校さえ難しいことがありました。附属特別支援学校の教育研究発表会の日もまさしくそうです。会の実施が危ぶまれる中で、懸命に除雪作業をしたり、日程を変更したりして、臨機応変に対応する姿が見られました。我々教師は場の様子や子どもの反応によって対応を柔軟に変更することが求められます。その模範のような運営であり、学園内の私たちも見習いたいと思いました。

保護者をはじめ関係の方々、今年度も温かいご支援をありがとうございました。今後ともよろしくお願ひいたします。

発行年月日:2014年3月20日

発行事務局:香川大学教育学部附属坂出小学校内

佐藤 美芽 (附属幼稚園)

宮野 真也 藪内 雅昭 (附属坂出小学校)

小林 理昭 中西 健三 (附属坂出中学校)

伊藤 宏美 尾崎 仁美 (附属特別支援学校)